

【戦評シート】

2011年12月11日（日）	協会名： 石川県バスケットボール協会										
場 所： 石川総合スポーツセンター	記入者：										
チームA 石川	86	{ <table style="margin: auto; border: none;"> <tr><td style="padding: 0 5px;">15-18</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">10-8</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">22-13</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">11-19</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">9-9</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">9-9</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">10-9</td></tr> </table> }	15-18	10-8	22-13	11-19	9-9	9-9	10-9	78	チームB 日立電線
15-18											
10-8											
22-13											
11-19											
9-9											
9-9											
10-9											

スターター	チームA： #2 綿貫 #13 八坂 #15 宮村 #16 北村 #55 田中 チームB： #0 鈴木 #3 宇佐美 #5 姿 #15 一戸 #39 梅津
ディフェンス (試合開始時)	チームA： <input checked="" type="checkbox"/> マンツーマン <input type="checkbox"/> ゾーン () <input type="checkbox"/> その他 () チームB： <input checked="" type="checkbox"/> マンツーマン <input type="checkbox"/> ゾーン () <input type="checkbox"/> その他 ()

第1クォーター

石川が7-0と好スタートを切るが、日立は#15 一戸のジャンプシュートが高確率で決まり、徐々に追いつける。7分を過ぎたところで日立はオールコートディフェンスを仕掛ける。これがうまくはまり、日立は逆転に成功する。石川は#4 ウスマンのファウルがかさみ、ゴール下でのディフェンスが機能しない。石川は後半、オフェンスもうまく攻めきれず、歯切れの悪い形で第1クォーターを15-18の3点ビハインドで終える。

第2クォーター

序盤は日立の激しいディフェンスに苦しんだ石川だが、選手交代で悪い流れを断ち切る。互いに決め手がなく、なかなか得点の入らない時間が続く。開始4分を過ぎたところで日立はディフェンスをゾーンにするが、それでも流れはつかめない。両チームともオフェンスで攻めきれず、フラストレーションのたまる展開となる。結局点差はつかず25-26の日立リードで前半を終える。

第3クォーター

石川は後半に入ってもオフェンスが修正できない。それに対して日立は#39 梅津を中心に1対1や速攻でオフェンスを組み立てる。ゆっくりと日立がリードを広げていく。開始4分を過ぎたところで石川はタイムアウトを要求する。ここから石川の反撃が始まる。石川#24 高村を中心に次々と得点し、残り1分半でついに逆転。流れを掴んだ石川が8点差をつけ47-39で第3クォーターを終える。

第4クォーター

日立は序盤からオールコートディフェンスを仕掛けるが、流れに乗った石川のオフェンスを止めることができない。石川はディフェンスでも激しく当たり、試合の主導権を握る。しかし、日立も簡単には譲らず、#15 一戸のジャンプシュートなどで徐々に点差をつめていく。残り1分のところでついに日立が同点に追いつく。石川は日立のラストプレーをなんとか守り、58-58の同点で第4クォーターを終える。

オーバータイム

石川がシュートを決めれば今度は日立が決め返す。互いに一步も引かないシーソーゲームが繰り広げられる。残り20秒のところ日立の激しいディフェンスからの速攻で3点差となる。このピンチを救ったのは今日好調の#24 高村。終了間際に3ポイントシュートを沈め、67-67と再び同点とし、ダブルオーバータイムに突入する。

ダブルオーバータイム

お互い決められたら決め返す一進一退の攻防が繰り広げられる。残り2秒で#2 綿貫が落ち着いてフリースローを決め、石川が2点リードとする。これで試合終了かと思われたが、日立#15 一戸が同点となるミラクルシ

シュートを決め 76-76 で勝負はトリプルオーバータイムへと突入する。

トリプルオーバータイム

石川は#24 高村のレイアップシュートを皮切りに3連続得点でリードを奪う。日立は疲れが見え始め、シュートが決まらなくなってくる。結局日立は攻めきることができず 8 点差の 86-78 で石川が大混戦に勝利する。

試合総括

序盤はオフェンスが全く機能せずに苦しんだ石川だが、後半に入ると#24 高村を中心とした圧倒的なオフェンス力を見せつけた。しかし、点差が開くとミスを連発し、日立に追い付かれてしまった。延長に持ち込まれた石川だが、トリプルオーバータイムの末勝利を掴んだ。第 4 クォーターの試合を決定づけられるところでミスを連発したのは今後の課題となるだろう。しかし粘り強く勝利できたのはこれからの石川の力となるだろう。

注意：文面には試合内容のみご記入下さい。